

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について

赤穂市教育委員会

I 調査の概要

1 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 教育指導に関する継続的な検証・改善サイクルを確立する。

2 調査対象

- 小学校第6学年の児童（359名）
- 中学校第3学年の生徒（336名）

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ※調査問題では、下記①と②を一体的に問うこととする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

《児童生徒に対する調査》

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

《学校に対する調査》

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日 令和6年4月18日（木）

5 公表に関する赤穂市の方針

- (1) 学力・学習状況調査結果を赤穂市の学校教育が抱える課題を解決するために活用し、その結果から見えてくる課題解決の糸口を「赤穂市教育振興計画」に基づいて、具体的施策に反映させる。
- (2) 結果を公表することにより、学校づくりの土台となる「確かな学力」の定着状況とその対策を発信し、保護者や市民の理解と協働に基づく信頼される学校づくりの基盤とする。
- (3) 本調査により測定できるのは、学力または学校教育活動の一部分であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう十分配慮する。

6 公表に関する留意事項

- 平均正答数（率）や個別の学校名は公表しない。
- 教科の領域や評価の観点等の区分における結果を概算値にて示し、今後の対策や改善等について、赤穂市教育委員会ホームページ等に公表する。

II 結果の概要

1 教科に関する状況（概要）

- 小学校は、すべての教科において全国と「ほぼ同水準」である。
- 中学校は、数学において全国と「ほぼ同水準」であるが、国語においては「やや劣る」。
 - *「ほぼ同水準」は、平均との差が、±5%以内を指す（文部科学省より）

2 児童生徒に関する生活習慣や学習環境等に関する状況（児童生徒質問紙調査より）

- 小学校・中学校ともに、全国・県平均より割合が高かった項目
 - ・いじめは、どんな理由があってもいけない。
 - ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
 - ・人の役に立つ人間になりたい。
 - ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。
 - ・学校に行くのは楽しい。
 - ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。

3 各学校の取組の状況（学校質問紙調査より）

- 「学力向上につながる学校の取組」
 - 【組織的な対応】
 - ・学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて組織的に取り組む。
 - ・各児童生徒の様子を担当だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り情報交換を行う。
 - 【研修の充実】
 - ・授業研究や事例研究等、実践的な研修を行う。
 - ・市教委、赤穂市教育研究所主催の研修会及び、各教科等の研究部会において他校の指導力向上に向けた取組を共有する。
 - 【地域・家庭との連携】
 - ・コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行う。

III 教育委員会の施策

1 学力向上推進事業の実施

- (1) ねらい 令和6年度 全国学力・学習状況調査の各校の分析をもとに、本市の児童生徒の学力向上に向けた取組を検討し、推進していく。
- (2) 取組
 - 各校の調査結果を踏まえた、課題のある領域の改善を図る取組
(赤穂市教育研究所を中心とする管理職対象研修の実施)
 - 始業前の「朝の学習タイム」を設定し、基礎学力の定着に向けた取組
(「朝の読書タイム」、「漢字・計算プリント」、「スピーチタイム」等の実施)
 - 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る取組
(AIドリルを活用した漢字・四則計算の反復練習・学習タイムの内容の充実)
 - 一人一台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善の取組
(「ひょうごつまずきポイント指導事例集」の活用促進、研究授業や研修会等の実施)
 - ユニバーサルデザインの考えに基づいた、分かりやすい授業の実践
(ICT機器の活用・指導と評価の一体化を意識した、すべての児童生徒が理解できる授業の工夫)
 - 学校と家庭と連携した基本的な学習習慣や生活習慣の定着を図る取組
(各校での「学びの手引き」作成、中学校「週末課題」の実施)
 - 社会生活・日常生活と学びの結びつきを図り、活用する力を高める取組
(小学校に「子ども新聞」を定期購読配布)

2 中学校区連携教育の推進

- 中学校区を中心とした学力向上を目指す効果的な連携教育を実践する。
 - 小・中学校間の「相互授業交流」の充実
 - 連携教育部会を中心とした効果的な小中連携の在り方の検討
(小・中学校の系統性を見据えた指導計画の検討)
 - 学校から家庭への学習情報の提供